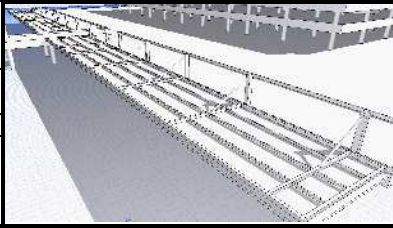


# CASBEE® あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	名古屋市中心卸売市場北部市場	階数	地下0階地上4階
建設地	愛知県西春日井郡豊山町大字豊場字八反107番1号 他80筆	構造	SRC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	0人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2029年8月 予定	評価の実施日	2026年2月20日
敷地面積	126,880 m <sup>2</sup>	作成者	可見 高明
建築面積	2,125 m <sup>2</sup>	確認日	2026年2月21日
延床面積	2,604 m <sup>2</sup>	確認者	森 貴志



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値: 100% (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

②建築物の取組み: #DIV/0!

③上記+②以外の: #DIV/0!

④上記+: #DIV/0!

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.2**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 0.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.5

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.0

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 1.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.7

3 重点項目	
<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">N.A</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; text-align: center;">16.8 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="font-size: 1.5em; text-align: center;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} - \text{附属物面積}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$



CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
 名古屋市中央卸売市場 北部市場

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄			建物全体・共用部分			住居・宿泊部分			全体
配慮項目	独自基準 重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体		
												<b>Q 建築物の環境品質</b>	
<b>Q1 室内環境</b>													
<b>1 音環境</b>													
1.1 室内騒音レベル		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 遮音		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 開口部遮音性能		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 界壁遮音性能		-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
1.3 吸音		-	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
<b>2 温熱環境</b>													
2.1 室温制御		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 室温		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
2 外皮性能		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 ゾーン別制御性		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 湿度制御		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
2.3 空調方式		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
<b>3 光・視環境</b>													
3.1 昼光利用		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光率		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
2 方位別開口		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 昼光利用設備		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3.2 グレア対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 昼光制御		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3.3 照度		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3.4 照明制御		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
<b>4 空気質環境</b>													
4.1 発生源対策		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 化学汚染物質		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
4.2 換気		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 換気量		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
2 自然換気性能		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
4.3 運用管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 喫煙の制御		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<b>Q2 サービス性能</b>													
<b>1 機能性</b>													
1.1 機能性・使いやすさ		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ・収納性		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
2 高度情報通信設備対応		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
3 バリアフリー計画	独自	3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.2 心理性・快適性		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	-	-	-	-	-	3.0	-	-	-	-	
2 リフレッシュスペース		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 内装計画		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1.3 維持管理		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 維持管理に配慮した設計		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>													
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.5	3.1	0.52	-	-	-	-	-	-	-	3.1	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	3.5	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.11	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	4.0	0.22	-	-	-	-	-	-	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		-	4.0	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-	
2.4 信頼性		0.1	3.0	0.19	-	-	-	-	-	-	-	-	
1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	
2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	
3 電気設備		3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	
4 機械・配管支持方法	②	3.0	3.0	0.25	-	-	-	-	-	-	-	-	
5 通信・情報設備		3.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

給水管はBクラス・消火配管はCクラスに該当する  
 受変電設備を評価し更新必要間隔は30年前後となっている

<b>3 対応性・更新性</b>				0.4	3.9	0.48	-	-	-	3.9
3.1 空間のゆとり				0.3	5.0	0.31	-	-	-	
1 階高のゆとり			市場のとしての機能の為、階高は7.280となっている		5.0	0.60		3.0	-	
2 空間の形状・自由さ			外壁のないとても広い空間を自由に活用できる	3.0	5.0	0.40		3.0	-	
3.2 荷重のゆとり				3.0	3.0	0.31		3.0	-	
3.3 設備の更新性				0.3	3.7	0.38		-	-	
1 空調配管の更新性		②	排水管は埋設管のみであるため、舗装の撤去のみで更新可能 天井仕上げのない露出配管のため、更新は非常に容易		4.0	0.33		-	-	
2 給排水管の更新性				3.0	5.0	0.22		-	-	
3 電気配線の更新性				3.0	-	-		-	-	
4 通信配線の更新性				3.0	3.0	0.44		-	-	
5 設備機器の更新性				3.0	-	-		-	-	
6 バックアップスペースの確保				3.0	-	-		-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>					-	0.57		-	-	3.0
1 生物環境の保全と創出		独自③			3.0	0.30		-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		独自④			3.0	0.40		-	-	3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>				0.3	3.0	0.30		-	-	3.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		独自④			3.0	0.50		-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上					3.0	0.50		-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>					-	-		-	-	2.9
<b>LR1 エネルギー</b>					-	0.40		-	-	1.9
1 建物外皮の熱負荷抑制				3.0	-	-		-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	-	-		-	-	-
3 設備システムの高効率化			BEI=	3.0	1.5	0.71		-	-	1.5
4 効率的運用				0.2	3.0	0.29		-	-	3.0
集合住宅以外の評価				1.0	3.0	1.00		-	-	
4.1 モニタリング				3.0	-	-		-	-	
4.2 運用管理体制				3.0	3.0	1.00		-	-	
集合住宅の評価				-	-	-		-	-	
4.1 モニタリング				-	3.0	-		-	-	
4.2 運用管理体制				-	3.0	-		-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>					-	0.30		-	-	3.5
<b>1 水資源保護</b>				0.1	3.0	0.15		-	-	3.0
1.1 節水				3.0	-	-		-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				1.0	3.0	1.00		-	-	
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.67		-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	3.0	0.33		-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>				0.6	3.9	0.63		-	-	3.9
2.1 材料使用量の削減		② 独自	高炉セメントB種を用いたコンクリート(名古屋市グリーン購入対応品) 再生砕石RC-40		3.0	0.07		-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					3.0	0.25		-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用					5.0	0.21		-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用					3.0	3.0	0.21		-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	-	-		-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				独自	仕上げ材がないため、躯体の解体及び再利用が可能	3.0	5.0	0.25		-
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>				0.2	3.0	0.22		-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用				3.0	3.0	1.00		-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避				-	-	-		-	-	
1 消火剤				-	-	-		-	-	
2 発泡剤(断熱材等)				-	-	-		-	-	
3 冷媒				3.0	-	-		-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>					-	0.30		-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		①	#DIV/0!	-	-	-		-	-	-
<b>2 地域環境への配慮</b>				0.5	3.6	0.50		-	-	3.6
2.1 大気汚染防止			大気を汚染する設備は全くない		5.0	0.25		-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善					3.0	0.50		-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				0.2	3.7	0.25		-	-	
1 雨水排水負荷低減		独自			3.0	0.25		-	-	
2 汚水処理負荷抑制					3.0	0.25		-	-	
3 交通負荷抑制		独自	施設利用者用の駐車場を十分に確保している		5.0	0.25		-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制			敷地内で廃棄物を収集しているほかごみ処理棟を設置している		4.0	0.25		-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>				0.5	3.7	0.50		-	-	3.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				0.4	3.0	0.40		-	-	
1 騒音		独自			3.0	1.00		-	-	
2 振動		独自			-	-		-	-	
3 悪臭					-	-		-	-	
3.2 風害、砂塵、日照阻害の抑制				0.4	4.4	0.40		-	-	
1 風害の抑制			周囲の風通しにほとんど影響しない建物になっている。		5.0	0.70		-	-	
2 砂塵の抑制					3.0	-		-	-	
3 日照阻害の抑制					3.0	0.30		-	-	
3.3 光害の抑制				0.2	4.0	0.20		-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			敷地外に漏れ出る光はほとんどない		4.0	0.70		-	-	
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			外壁がないためグレアは発生しない		4.0	0.30		-	-	

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE:建築(新築)2016年版+あいち版手引き

名古屋市中区中央卸売市場北部市場

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>3.6</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.1	0.22	
Q2-3	対応性・更新性	3.9	0.21	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.9	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>3.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	3.0	0.17	外構緑化:16.8%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 名古屋市中央卸売市場北部市場

計画上の配慮事項	
総合	<p>本設計では既存の卸売市場の機能拡大、従業員の環境改善のため、増築による作業面積拡大と雨・日差し避けの屋根の延長を主軸としています。基本的には外壁の存在しない空間となっており風通りはよく、なっています。</p> <p>設備としては太陽光発電を設置しており、創エネルギー的な考え方も組み込んでいます。</p>
Q1 室内環境	対象外
Q2 サービス性能	<p>外壁や間仕切り壁などは設置されておらず階高は7.55mと高くなっているためとても開けた開放感のある空間となっております。</p> <p>天井は設けておらず配管配線は基本的に露出にて設置されているため増設・更新の際に仕上げ材が干渉することはないため、環境に付加はかかりません。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内には敷地面積に対して5%程度の緑化面積を確保しており、本設計においてはその緑化部分に対して干渉をしないような計画となっております。
LR1 エネルギー	鋼板屋根の上部には太陽光発電装置を設置しており、自然エネルギーを活用する取り組みを行っています。
LR2 資源・マテリアル	<p>本建築物はSRC造となっており、内部が存在しないため、木材の利用は一切行っていませんので、森林伐採の影響は全く出ません。</p> <p>路床や舗装では再生砕石(RC-40)を採用しており、環境負荷の低減に寄与しています。</p>
LR3 敷地外環境	<p>主要な用途は卸売市場の為、荷捌き・荷下ろしが主な利用となっているため燃焼機器は一切配置しておりません。</p> <p>また外壁などが無いため風の通りを阻害するものは基本的にありません。よって通風は建設前とほぼ同程度で確保されるものと思っています。</p>
その他	